



青少年読書感想文全国コンクール

主催/公益社団法人 全国学校図書館協議会・毎日新聞社 後援/内閣府・文部科学省 協賛/サンリーホールディングス株式会社



名前

(1枚目)

室における著作権の侵害の実態調査のためだ。
 入調査を命令される。期間は二年間。音楽教
 に勤める主人公の橋は、ある日、上司から潜
 全日本音楽著作権連盟、略して「全著連」
 せんな時に出会ったのが、この本だった。
 そして私にとっての音楽の意味を考え始めた。
 らい私は音楽が大好きなことを改めて感じた。
 な気持ちだ。不安と寂しさを感じた。それぐ
 ることは、まるで親元を離れて旅に出るよう
 小学生から続けてきた吹奏楽の世界から離れ
 強に専念するためだ。大袈裟かも知れないが
 れることにした。吹奏楽部を休部中。受験勉
 私は大好きな音楽から、ほんの少しだけ離
 つぶやきながら、英語の教科書を開いた。
 いぶ腕が落ちただろうな。そんなことを心で
 っしばらくサツクスを吹いていないから、だ
 スの七時間目の授業に向かう。
 友だちと軽く挨拶を交わして、私は受験クラ
 っありがとう。クラブがんばってね！
 っ武田さん、授業がんばってな！





青少年読書感想文全国コンクール

主催/公益社団法人 全国学校図書館協議会・毎日新聞社 後援/内閣府・文部科学省 協賛/サンリーホールディングス株式会社



名前

(2枚目)

橋にはチエロという楽器の経験があった。善
 良で人間味あふれる講師の先生や仲間たちと
 の交流の中で、幼少期の怖い体験がきっかけ
 で失っていた人と音楽を愛する気持ちを取り
 戻していく。そして同時に、大切な仲間たち
 を裏切ることになるであろう潜入調査に一人
 心を痛め翻弄されていくのである。

音楽の作り手の権利を守るというのが全著
 連の考え。音楽教室のレッスンにまで著作権
 料を求めることは、音楽を楽しむ自由を侵害
 するというのが、音楽教室の運営団体ミカサ
 の主張。それぞれ理にかなった主張である。

しかしこの物語は、ミカサ優位の視点で展開
 される。それはなぜか。

私は同じ行為でも「何のために、何を守る
 ために為すものか」によってその価値が変わ
 るという作者の思いであると考えた。潜入調
 査は、音楽の作り手の権利を守るというのが
 大義名分である。ところがその内実は、社内
 派閥の権力争いであり、それがための成果争



青少年読書感想文全国コンクール

主催/公益社団法人 全国学校図書館協議会・毎日新聞社 後援/内閣府・文部科学省 協賛/サントリーホールディングス株式会社



名前

(3枚目)

いであつた。相對するミカサの運営する音楽
 教室の講師が、法廷で次のような証言をする。
 「講師と生徒の間には、信頼があり、絆があ
 り、固定された関係がある。それらは決して
 代替えのきくものではないのです。」
 人は「好きか嫌いかに」で行動を起こすこと
 がある。また「損か得かに」が優先する時だ
 てある。しかし人間が人間として輝くのは、
 いざという時に、人の生き方としての正しさ
 を基準に行動できた時であると思う。

全著連が行った潜入調査は、個人の損得勘
 定によつて始まった。詩人の谷川俊太郎さん
 が詩に綴つたことが思い起こされる。「生き
 る」ということは「かくされた悪を注意深く
 こぼむこと」と。まさに全著連の行いのよう
 なことを指すのではないかと思つた。法的に
 は全著連が優位である。しかし對するミカサ
 の講師は「音楽活動を通して生まれる人間の
 つながり」の価値を大切に考えてほしいと訴
 えたのである。



第69回 読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。
青少年読書感想文全国コンクール

主催/公益社団法人 全国学校図書館協議会・毎日新聞社 後援/内閣府・文部科学省 協賛/サンアリーホールディングス株式会社



名前

(4枚目)

私は改めて自分の所属している吹奏楽部の
 ありがたさを感じた。部室に向かう友人の姿
 をうらやましく思いながら、自分は受験ク
 スの授業に向かう。そんな時、仲間や顧問の
 先生がかけてくれる「がんばってな！」とい
 う温かな声にどれほど励まされ勇気をもらっ
 ているか分からない。まさに信頼があり、絆
 があり、固定された関係があり、決して代替
 えのきくものではないのである。ただ音楽だ
 けではない、そんな宝物に私は気づいた。

高校生生活は、慌ただしく時間が過ぎていく。
 クラブも本当に限られた期間の活動だ。一日
 もあつという間。そしてきつと終わりを迎え
 るのもあつという間なのだろう。主人公の橋
 も、そんな限られた時間を生きていた。物語
 では、度々時計を見上げるシーンが登場する。
 潜入調査として過ごす時間はとてつもなく長
 く、人のつながりや音楽を楽しむ時間はき
 とあつという間に過ぎたことだろう。

「始まつてしまつた音楽は、やがて必ず終



青少年読書感想文全国コンクール

主催/公益社団法人 全国学校図書館協議会・毎日新聞社 後援/内閣府・文部科学省 協賛/サントリーホールディングス株式会社



名前

(5枚目)

わりを迎える。このセリフが心にぐつとささ
 った。私がこれまで参加してきたコンクール
 の場面が心によみがえる。開始前の心臓のド
 キドキ。演奏中のワクワク。そして演奏を終
 えて拍手に包まれる時に感じる達成感と少し
 の寂しさ。すべての始まりは、必ず終わりに
 向かう。積み上げてきた苦労が大きいほど終
 演は美しく輝く。人の一生も、きっとそのよ
 うなものではないだろうか。
 人生は一度きりだ。昨日という日には戻れ
 ない。私が正面切って向かい合えるのは、常
 に。今と。というこの瞬間だ。今への挑戦が未
 来を作り過去の苦労の意味を深める。だから
 私は、今の課題に全力を尽くし私らしく人生
 を輝かせていきたいと思う。
 窓の向こうから吹奏楽部の練習の音が聞こ
 えてくる。私はぐつとシヤーペンをにぎって
 べに思う。
 っみんな、がんばれ！私もがんばる！